県立広島病院広報誌
もみじ
第52号
2013.6.1
発行

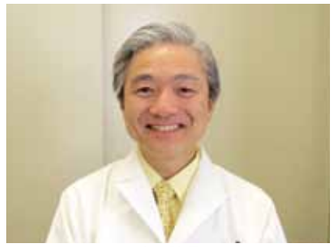
県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 （URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

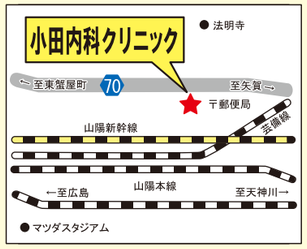
連携医院のご紹介

今回は「自分の家族を任せられるような医療機関」を常に意識して取り組んでおられます小田内科クリニック 小田弘明先生です。


小田院長

医療法人
小田内科クリニック

〒732-0045
広島市東区曙5-3-26
電　話／082-568-0700
院　長／小田　弘明
診療科／腎臓内科・消化器科



○いつ頃開業されましたか。

平成14年5月1日に開業致しました。透析センターも同時にオープン致しました。

○開業されてから今までのことを教えてください。

日々、自分の家族を安心して任せられるような医療機関にしようという思いで取り組んできました。看護面も患者さんの立場に立って接することを常に心がけております。また、栄養士も一緒に仕事をしております。医師だけでなく、様々な職種が仕事をしながら研究活動を行い、海外を含めた多くの場所で発表・報告をしております。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

現在、広島県腎友会小田支部という、患者さん同士が支えあう勉強会を定期的に行っております。その中では、医療者も患者さんと一緒に腎不全食を食べる機会を設けており、患者さんと同じ体験をして治療に生かしていくということを大切にしております。また、勉強会には人工透析が必要になる前の保存期腎不全の患者さんも参加されます。勉強会での体験が患者さんそれぞれの生活に生かされればと思います。

○開業医のやりがいについて教えてください

患者さんが期待する以上の成果を出すことができた時がやはり、嬉しく思います。成果も、医学的な治療の効果だけでなく、患者さんそれぞれの“幸せ度”につながった時がやはり嬉しいですね。

小田内科クリニック外観

【取材後記】
患者さんを家族の一員のように大切に思っておられる小田先生。私たちの取材にも丁寧に、そしてにこやかに応じてくださいました。先生の患者さんへの日々の接し方が目に浮かぶようでした。

県病院のボランティアさん 外来案内 vol.2

いつも笑顔で対応しています

診察予約カードを入れています

県病院では、患者さんやご家族に対してきめ細かなサポートができるように医療者とボランティアさんが協力して患者さんの支援にあたっています。初めて病院へ訪れた時「受付は」「どこへいけばいいの？」と戸惑ったことはありませんか？親子で外来案内のボランティア活動をされているお二人にお話を伺いました。

当院でボランティアを始めて何年になりますか？また、ボランティアを始めたきっかけを教えてください。

娘に声をかけられて始めました。まだ新人です。

２年くらいです。中国新聞にボランティアの募集が載っており、自分にできる所からできたらよいなと思い始めました。

ボランティアで、楽しみにしていることは何ですか？

外に出かけるキッカケになり、ボランティア活動が楽しい。ボケ防止（笑）

元気にお手伝いができることです。

ボランティアで困ったことはありますか？

県病院にお世話になったことがないので、診療科等、場所を覚えるのに苦労しました。

ボランティアをしていて印象に残っていることは？

「ありがとう」の言葉をもらう時。

少しのお手伝いで「ありがとう」「助かりました」と言われること。

普段から心がけていることを教えて下さい。

感謝のお返しと思っています。

困っている方への声かけは、『笑顔でさりげなく』と心がけていますが、なかなかできないです。

お話中もほっとした安らぎを感じるお二人でした。よく気がつき笑顔と誠意ある態度は病院の癒しとなっています。県病院では患者さんのために少しでも自分の空いている時間でボランティア活動をして下さる方を募集しています。詳しくは当院HPで。

お花もボランティアさんがお手入れしています。

県立広島病院からのお知らせ

緩和ケア 看護師研修 基礎コース

- 開催日 平成25年**8**月**1**日(木)・**2**日(金)の2日間
- 時　間 9:00～16:30
- 場　所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 平成25年**6月27日(木)～7月11日(木)**必着
- 参加費 5,000円（資料代）
- 対　象 次の要件をすべて満たす者
  ①県内の医療機関等に勤務する保健師、助産師、看護師、准看護師
  ②現在緩和ケアに携わっている者、又は近い将来携わりたいと希望する臨床経験年数3年以上の者
  ③全課程（2日間）を全て出席できる者

緩和ケア 介護支援専門員・地域連携職種研修 基礎コース

- 開催日 平成25年**7**月**10**日(水)・**19**日(金)の2日間
- 時　間 9:00～16:30
- 場　所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 平成25年**6月5日(水)～6月19日(水)**必着
- 参加費 5,000円（資料代）
- 対　象 次の①、②のいずれかと③の要件を満たす者
  ①居宅介護支援事業所・介護保険施設等に勤務する介護支援専門員
  ②医療・福祉機関・介護保険施設等で地域連携・相談業務を行っている者
  ③全課程（2日間）を全て出席できる者

問合せ先 緩和ケア支援室（緩和ケア専門研修 担当）
※詳細はホームページでご確認下さい。 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/muki-muki1.html

外来診療のご案内

診療受付時間
午前８時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

休診日
土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始（12月29日～1月3日）

紹介状持参のお願い
初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなることがありますので、ご了承ください。

リニューアル 救急外来が新しくなりました！

この度、救急外来が新しくなりました。療養環境も大きく改善され、初期診療から迅速かつ連携良くスムーズに専門治療に移行できます。今後とも24時間救急医療を提供してまいります。

診療台が増えました

正面受付

救急外来のスタッフです

診療について

救急外来では担当医と救急外来看護師が対応を行っています。また重症度・緊急度を判断し、重症度・緊急度の高い患者さんを優先的に診療させていただきます。症状によっては待ち時間が長く、診療順が前後する場合もありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

救急受診について

救急外来では原則として突然起こった不調や、以前からのご病気が急変した当院にかかりつけの患者さんの診療を行っています。緊急性の高い場合には、処置や検査を行っています。

緊急性のないご病気については、後日詳しい検査をさせていただいております。また、何日も前から症状がある場合や詳しい検査をご希望される場合には、平日の一般外来を時間内に受診していただくようにお願いしていますので、できるだけ診療時間内にご相談下さい。

夜間・休日の受診時には保険証と一時預かり金にご協力下さい。

重症度・緊急度とは

①意識がもうろうとしていたり、麻痺や呂律障害がある。
②ケイレンしている。
③呼吸がおかしい。
④胸を痛がり、冷や汗をかいている。
⑤大量の血を吐く

などの状況の時は、救急車での来院をお勧めしますが、下記の救急医療ネットをご参考下さい。

お電話の際には

① いつ頃からどんな症状か
② 何が一番辛いか
③ 今回の症状に関して受診した医療機関があるか
(あれば処方された薬や受けた検査の内容)
④ 通院している病気や、今までに受けた手術
⑤ 現在服用している内服薬

順序だてて話せるようにすると良いでしょう。

救急医療Net

ネットで受け入れ先の医療機関を公開しております。
救急の際は確認されることをお勧めします。
http://www.qq.pref.hiroshima.jp/qq/qq34tpmnlt.asp

外科医の独り言 no.21

― “お迎え” ―

死の間際、すでに亡くなった人が夢枕に立つ“お迎え”。30年も医者をやっていると患者さん本人や付き添っておられた御家族からも良く“お迎え”の話を聞きます。医学的に、この“お迎え”の発生のメカニズムは十分に解明されていないようですが（解明する必要もないのかもしれません）、死期が近づくと脱水状態となり脳の血流が低下してある種の幻覚として起こると理解されています。しかし、これが臨死体験やアルコールなどによる幻覚、また通常われわれが見る夢とどこが違うのかまったく分かりません。

昨年、東北で在宅クリニックを展開している医師が、亡くなった患者さん575名の遺族にアンケートを実施し、この“お迎え”体験や具体的な様子を回答してもらった結果を文芸春秋に掲載していました。またこの結果を踏まえて、NHKのクローズアップ現代でも、在宅での看取りが取り上げられました。アンケート調査の結果では、終末期患者さんの4割が“お迎え”を経験していたそうです。夢枕に出てきたのはすでに亡くなっている親、兄弟、友人が約半数を占め、懐かしいふるさとや思い出の風景、飼っていたペットなどがそれに続くそうです。“お迎え“を体験した故人の様子は、普通だったが40%、不安そう悲しそうが25%、安心したよう落ち着いたようが25%でした。しかし一番驚いたのは、この“お迎え”を体験した場所です。約8割の人が自宅で体験したのに対して、病院で体験した人はわずか1割程度だったそうです。そして、“お迎え”を経験した遺族の約半数は、故人に死が近づいていることを実感したそうです。“お迎え”が来ることが良いことかどうかは別として、それを聞いた家族はそう遠くない死を実感し、心の準備に入るのかもしれません。実は病院でも患者さんは“お迎え”を経験しているのかもしれませんが、ベッドで支離滅裂な言葉を発し不穏で苦しんでいる病的状態と判断されて抗精神薬で治療を受け、せっかくの“お迎え”が妨げられているのかもしれません。

ちなみに、この原稿を書いている最中、8年前に病院で亡くなった父親はどうだったのか、ということが気になり早速母親に電話して聞き取り調査を行いました。耳が遠い母親に電話で聞くのも大変でしたが、要約すると以下の通りでした。

亡くなる前日の朝、母親が病室を訪れると、亡き父が「昨夜腹の上に大きな蛇が寝ていて重たかった」と言ったそうです。母親が「蛇も見舞いに来たんですよ」と返したら安心して眠ったそうです。そのあと真夏の日の光が急に真っ暗になり、ものすごい雷雨になったそうです。こんな話は今日初めて聞きましたが、電話口で、えっ、蛇かよと思いつつ、蛇は『神の使い』、『医療と健康の神様』、『商売の神様』。「待てよ、実家は真宗だから神様は関係ないな」などと自問自答しながら亡くなるまでの状態の話を長々と傾聴しました。良く考えると今まで母親との電話は用件だけを話して、こんなに長々と話をしたことがなかった親不孝な息子でした。

副院長（消化器・乳腺・移植外科主任部長）
板本敏行（いたもと　としゆき）

県病の星 小児救急看護認定看護師

救命救急センター　山下 洋平

小児救急看護認定看護師は、急な病気や事故にあった子どもたちへ適切な看護を提供するため、子どもや家族への援助を行い、看護師への指導・教育を行う役割を担っています。活動内容としては、病気や事故で救急外来を受診する子どもに、適切な看護が提供できるように看護師への教育を行い、地域では家庭でできる事故予防や子どもが病気になった時に、家庭で出来る対応の仕方など勉強会や講演会を開いています。また近年社会的な問題となっている子どもへの虐待や育児能力の低下などについて、小児救急看護認定看護師は専門的な知識を持って対応します。私たちは、子どもを一人の人間として権利を守ることを第一に考え、適切な医療や情報を提供できるよう援助していきます。

病気の子どもや怪我や事故にあった子どもだけでなく、家族全体をサポート出来るよう全国の小児救急看護認定看護師とネットワークがありますので、育児から病気・怪我まで困りごとがあれば何でも相談して下さい。